壹

古活 14

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

第一

源氏五十四卷

渡利邑

松浦氏

雄略七

仁明兼和三紀しうそ柏承漢云こ

君子過如月食過人皆見

冷眼

伊勢ナミノ

遠例又ヨロキ心

侍児云カ

カン千チメ

夫容君 上陽

秋東ナカノ色モナキ志モアリ

色人なくもあひなく紙うち絶ていとまうゆ
き人の所ならひとなりぬるうちに殿納ハ周悲王
あらきれきと
處似
驕不自
あるとようをもみるくまうるまけもやあるうく
起吉
あめれたるふもうちうちなるうちうちなやみく
よなりて物哀ものくあり（その事ノ）
ゆくまいやもたなれくとヨロヒ物ニツヨクアタレヤウノ心
なるはひとうのたくひなれをあのまくまら
ひはちうの太線なくなくなくなくなくなくなくなく
の人のようるくやうるくちくあくくく

礼記ニ官学

記ス

内侍宣

文衣ノ

文ノ

内侍宣ハ板ノ折返シテノ檜皮可得

みちまもりやしき
人の家ぬのすそ
又うれとさるさ
なるうかたむ
汚穢を
きこのさ
いてこ
らひ汚
うゑ
ひて
ひく
のも

（邪道）
（馬道 コンノーツキノ道ノ高下ナシ）
（曹司ス）
（左衛）
（天子ノ）
（ナスミ玉フ人ノ）
（係）
（朱ノ）

さ物さ絶
汚うきこ
源
みこの
ひくく
物ひ
物なり
果ノ
うの
らひて
さを
ぎ
日く

（昇ノ）
（イカ台カ）
（ヒビ ヒビ）

なれもてあなくくそうしてまうでさせて
さうり紙ぞうりなどもあれまゐ
ひぼのひしをとをとく先をまりて色ひてう出
紙のきりあれをさのこもをとしのきせのとしぶ
らてふとてくぬぬかけうかさないみのくか
くあたさるいやもひやうはつくきなうんの
いうとうおやせていやこをと猫を里ひみなのう
あをとをいうとけくもけをあをとぶらんをうをさをあをう
とをせうをもうさ紙
すをおほーうきをそうはのあと紙なくくち
きをの猫をすんとぶいくへもうやし猫いすまを

源

古今
またねくえぬいうとおやせていやこをと猫を里ひみなのう
くあたさるいやもひやうはつくきなうんの
いうとうおやせていやこをと猫を里ひみなのう
あをとをいうとけくもけをあをとぶらんをうをさをあをう
とをせうをもうさ紙

リ云
猫にたいのもとうをうをまをくをもをまをのををきた

かとをいやをまゆをくをくなをはらしくと我うのけ
しをすくくみくんをのうさ海をよをなりめし
まをはをてくるまのせんをおとをの猫つ猫をてもを又
いくせ猫をくをけくうをえゆるうをを猫ををくをうををあ
らんみちくもをくをきをれくくをくをとちをくせ
猫けるををくをををうちををてくいを元猫ををやらをと
の猫ををくをををもをいやをくをとをみをてをくうをて

宜旨

ヲレミモアラストト

病者ニ早ク死セント思ヒ有ヲ命ノ侯イキチキト

文長
つをくをとをてををのをくをみをちのうをををいうを
をををを

源内侍ニ
ミノリト云
ハ
ノリ

ゑまノハツルル果
先ハ死スト
死カルヽトヽム

くもなりんと思ひてそれとおぼめきて
ほのぼのとあけぬるほどにかへりたまへ
るこゝろぼそさいはんかたなくひとりと
なりてまどろまれずものゝ
つゆまどろまれずものゝ
ひとりぬるよるはいとさびしくて
なくのみなんとおもひたりけるを
たゝ果てはてなんさうぞくをぬぎかへ
てうゑのきぬばかりにてひとりふす事
もはじめてのことなれどこのつとめて
はかりのことをこそ
無分ニ無理ニ

其親喪

服傷ノ令ノ義解ニ云未成人七条以下 律令格式ホニ三十七
三条ニ服遭母ノ喪ニ父義大子三歳ニ大ニ対年ノ女薨ス

くてもはらんをさうけしきとうらみ
ければ
源氏心

ひとりぬるよるはいとなんとなれをまの
うちうんともおもはしたらひとみ人の
ひれたるとひうゑもはなはだしくなられ
ぬるとみてさうぞくをぬぎかへてうへ
ことにふうちわきたるうちわをなれど
さなるよまゐりのひうちをあまぞ
まひのさなりのおさめてまつ
ゝなりにのつとめをもくさうの
ぬぎかへてうちのおとゝの車よをひきてゆ
とたまひ
延暦要記ニ云アリ北ノ方ニ云

桓武天

たまうのおとゝ
ちいのうちのうちあり

きんじゅ（心中）ゑ（絵）ゆうしゅう（シシ）とみるくゝ（なさ）ゑ（絵）物
と思へのいやうひなをまてんもいかなりけんを
みをわてゆさ（トナトテントト毎ノヲモリモト）きなれ人と（ほき人）ひるさ（人）思ひなり
すんとちうしうの（ほ）ほきと車ゝちゆちゆめへう
まとひ（ほ）へ（ほ）さ（ゼハコノ）ゑ（ほ）ほ（ほ）ほうしゆ（ほ）ほうしゆ（ほ）ほ（ほ）ほ（ほ）ほ

詠シウレシ文ト云カヒアリ

はなたちばなかとそ紅微殿なとまとはゆるしかう
の紅ひけるを一の文とみるをうを清るもろの文の清
らひ一さのをはしくけるをはしくけるをはしくけ
はなとけうつけあるとあるをとあつめと
聖系ならてよをうみなをさはむさ夕番のほとつの
ちり梅一のはてことをなくてゆきつれ命婦と
いふをけうとひ夕月夜のおりまちはくしく
さてをのてやくなのめをおとをはまとやうの
おるをはあうひなとせを安給はよむことなるを
はく書とうえからしちうなくやしいつれとの
兼もひとういうとなるをはきひはちのおも

車ニシテクメリ

更衣ノ母ノ里ヘ

うあるはをうひくをさをはくうをやうのうはく
るをはとをなり命婦うあをはくはをうて
とひえいはくうあをひあるれなるやもはをを
なれと人ひとをはうはうはくはくはくろひ
たてくめ屋をを祖をくすくはつへをやをよく
はくみはをを祖よくをもたくなり聖系をはくを
あををうちして月をあるうやへむくうを
さををあいつをうるみをはのをはたるはて
はくをををえをのものはうす命婦ををもを
をうのひとうえをのうはうはうのひのうををの香
をはけうをはるはをくもはををうのうをうをそ

げよとこうまでをあい汚へ
しらひさりくいくやうなるの
そうし汚くと物思ひ絶てしらぬ心ちすと書か
ようのやうに思ひ明くうちへまけ
ひそかにをことつくへ中の御
たとうまくとやうく思ひたつまうとさし
つかわくなくたへくこそいふすへきうさ
とひあうとひへそんんふなをものびていさ
いつまで行ひうんやうの文いやをおぼけうなつも
けそ中ふすくを汚をひくうおぼされくとと
くあり汚へなとうくしうものを汚つ安をそ

ひとう色らを汚けくそいへんもひよもくみて
まうらんとおぼくけくまうすもうぬ志
きのひくうさふけたけるもそぬやうま
てうんまのくこつるやうそ
もみを汚らるようくうあれおぼをおと紙ひの
つくくなんとくそ汚ものすくすこおまきく
まのやとまうくひ月ふうくいやものび
かくこそまりなれるさうんいをひれ人とい
ふと思ひやうけくりうとまうさぬおぼ
けのおさ紙いへる紙ひくのうくみなどら
へくもけ汚へなとこやうくせ汚へて

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号　ガラス使用

あいなからひとをさそひまつる我なりぬ
とそうちなげ給ふ思ひうるるなと思ひ給へ
うまとをくつとりいたりくしうるる人も
なれまさらひはなくすると事と思ひ給へ
ぬ
ゆくゑのゆいあんとうつしとうるいい
ずしそ給ふとかよわ給へまそのあひさの
ろかよりのくきけなる人あなたちをかく
けくまさらひ給へうるとへのうねみぬうくつりを
面をうくぬとおくなりうひとへるうのらさ
海なるやうまくなるようくなり給ぬまさるをと
てをつくくるんしあんはひ給へを思へ給へ

あまも見となれんのやうなといひをすむ
給へうへつまのおとうるゆをぬう給もしるん
我法ひなのうあれうるへうへのおなろくつるが
されしをかくれまそなりりとはをつく
うるあれへの給りへるんをふいあくうへのひ
とをまをくうへはうしやをはをくこれへのあ
くあまくくうまさへのうるをおひまそ
をそのうくうるれて給へひあをのくうなる
るをへ人をうるくくるおなり給ぬうもされの世
ゆのくうなんとうるへくくるおなりうくれう
のをなくくまとのくくなくなくなくなく

[illegible]
きんという[illegible]月きのつ[illegible]
みまくまるよ[illegible]
つ[illegible]
すくなくさ[illegible]
すぐ[illegible]
よ[illegible]
いと[illegible]
そ[illegible]
せ[illegible]
[illegible]

[illegible]
うかし[illegible]
[illegible]
[illegible]

もしろさはうるさなりをはらんすらやうさまの
ひやりはひすくすうきりはあるかぎりいい
せはくはうのそこはせはせはなりはあのはわ
はるかはんしきはうはんはうはいはんはいはいはい

源氏位三七ヲ千玉八、

いぐはもくちりくさはるでもあうりんの氏ちか
くとうう思ひわんぎのなとの給ふとぐうのやく
つ物はたらんぜあぞなる気人のすきうの弱出さもりん
ちるーのうんちーなるまーうもやはもちもい
やうひる　　指琴夜女双金釵袖合各折其半授使者

蓬莱へ弱行ふを幻と云

たつひはくまひろーもうふはてくもむのま
うぬうとちるるをく絶ようえしる物見れのくく
ちをいうーさ色をといるとと巻のうちりけま
ちいやもひをくなーを源の芙蓉未央の柳を考ふ
うりひちをしうちをうめいるれようひい
うちーうりけりなつのーらりさばか

良ノ心ヨキ事

天毎ノ人作シテ

花ちの色をつーとを物ーいるる花鳥の姿りもを言をよりの
言種
るをしくさふをひをを
つえのくうなるあきゆのりう
らへ枝をうちさんと契らをのーーうかちさ
ける余のちのうはえをひうーめーさ風の高ー
のひはきく物のこうーうれかされくま弘徽
殿ーをひさーうう色の海はれ称ーをまのりを
海ーひ月のはもーちさふ藤ゆくるまであうひと
うー結なるいやすきーーしーもの一やさーめを
このーちの海はーを紙みくさはうる色人の家
おとをのくうーいーーとさくはりいやをを
ゆくくーえとちる物ー折海ーくくをを

花ちの色をつーとを物ーいるる花鳥の姿りもを言をよりの
るをしくさふをひをを
つえのくうなるあきゆのりう
らへ枝をうちさんと契らをのーーうかちさ
ける余のちのうはえをひうーめーさ風の高ー
のひはきく物のこうーうれかされくま弘徽
殿ーをひさーうう色の海はれ称ーをまのりを
海ーひ月のはもーちさふ藤ゆくるまであうひと
うー結なるいやすきーーしーもの一やさーめを
このーちの海はーを紙みくさはうる色人の家
おとをのくうーいーーとさくはりいやをを
ゆくくーえとちる物ー折海ーくくをを

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

あるすがりけちてりくるるのうへしの月を
いるさ
空のうゑもなりたるふるくれの月いるくもむ
らんあさちのやとりやるやうをけくとも出を
るくあけくてはきはるくまるをなをうけるさの
汝井戸のこゑ聞ゆるはうはなりゆるなるうへし
人めはなりてるるのれとくるいるせ給てるは
とるまを給ふとうるくふたきを給ふとく
もうるるもをくでとはるしいはるるとる紙ゆき
まつるとををたらを給へうのりそのなと
もこうるくめさそあるさうまいれさ

玄家ハ光姫ムツヒテ胡ノ人シュタリ玉キリツボハ文ニハナレナケキニ忘メシユタリ玉キシカ作タル

アレギサキンヨノモフホシメサスモヤナミ玉ノ人ノ双花

ヨンノトハ子ルヤリニヨム

倍膳

上古ハ朝夕たはシ
れて出箸
シ女房

大内著ル
大家古せ

せ給とくた床みのはしはなとをいるの
るくれはるるるくはるるくるるるるるるる
るくれへまくんよのるるくるるるるるるる
るるるくるくるくるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるる

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

さ海の底深くまぎれにしかど
ちかくとゝろかれ沖をゝ
うひ浦へさゝかもかゝるけり
浦づ今ゝうなかめつゝ
まこいをとうゝうゝとあ
もれを思ひやるつゝ
さる物まくゝゝえの祈
ひつくいひけゝきハ
つゝ人の住さ海なりあ
つまぶう中ゝあゝ相人あ
たくゝ文ゝうゝうゝめさ
ひてゝみを源
鮫ゝけゝつゝゝぶゝてつゝ
ゝゝ大弁のあのやゝよおもつ
相人おとゝろさそめまたひ
のおやゝなりて帝王ゝ
つゝ人ゝ相おもゝ人のゝ
れゝまゝゝとやゝんおゝ
つくゝゝたゝ接ゝゝ
ゝゝしやゝゝ弁ゝゝ
ていひゝゝる事ゝなゝ
文なゝつくゝゝゝゝゝ

源氏物語
版ノあシ
日記ト
略ノあシ
出ス乗ニ
略版ハ秀
シツクリト
トゝ忘レ
異国人ニ
似ルハ良相
トゝモアリテ
右国ノ志ソ
付ネし

相人おとゝろさそめまたひ
のおやゝなりて帝王ゝ
つゝ人ゝ相おもゝ人のゝ
れゝまゝゝとやゝんおゝ
つくゝゝたゝ接ゝゝ
ゝゝしやゝゝ弁ゝゝ
ていひゝゝる事ゝなゝ
文なゝつくゝゝゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

やをりて人々をあまたせ給へとおぼしひよぢ
さきたちふいはひのかぎりなきうとまうのこ
ろはせたまへりなりぬるに先帝の四宮の御ぐ
ちをくれ給てやがてこのかぐやひめをかた
なくうしなはせたてまつりたまひしかなしび
なげきたまひしの時の人々くるの文ことたてまつり
給なれどもなれどもしきなくれて後しとさ
もみそくさうり今とはの文をのみてうを給ふ
文をこのみ給ひちよ給ふ人々を三代の文はのへ
給ふ人々もろもろみをまちはをわよ文さい入文
の始文をいとうやうにかなりてひいくさを給へ

兄オヒ男女ミシリメルシ
セウトト云
女子ノ兄オヒ
ハラカラトト云

つまけをうりてこの文御ちちに人々うんとうう
ぶれまさりやとおむとおもひてゆんしろまま
しさを給ふりまくこの文されあれをそろやむ文の
女の人のいはのなくてきるをはのうをの
まうりなくのくかされしもはしうはく
ちはくみそまりのくくしうもはりまりまりる
りとまの文されもうをを給ふうろをそさ給ふく
はまくまをまくまりのおうをををうつ
まをおうをとおはれんろはやををうを給ふ
らの人々御うろをふはうをめをつの人
こなとうくひはそくそれをはんらをうら

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

ひくみて清人もまきなりずんなとまうしほを四月清人ツイテ玉

のへまゐおきたれひらよとちひれ花まゐるに

けてもひかりをみしたてうるこえなるひとせ

と清へまゐたてんの如はまた春の文とも清中う

へうもしく氏和うらうくさりの文衣ノモノ(テ)清

出くるのもとおほしらるを母ふさくひるやみて

てさうり清ひるおたううおくひろ文の清ひちは

もる紙うたくさたとつんひさなくつくつ

きなるとをの人ひう氏おとをの母衣なくひ清

てはおほ光もるくなれうくやくはの文と

の母はおの清まうをのくうくおが

童形

冠者

女人イ

朱雀イ

妻ノ姫ハ

云役カニシキ

ーモアリ

白衣ハ

九月四日

まや十二月ト云うく清元服し清内つ男居

なりてうさるを行氏事よりとく紙うへさを清一とを

春文の清弟ゆく母衣芸宸殿うるくさくさ

ほうるくはひくさをとさを清くひ所くの餐

なくくるうさ穀倉院内蔵寮なくおややをくとつ

うまつまるをるそうなるもくるとるを氏

おほをくとるくきくくとはくくてはうまつ

まりたつまをやの家の家のひひうくひさ

よりたてくくくれ涼イさの清度ひ氏いまのの左内

清さ清あのようさるのとき申河トリミテ源氏多りのふみ

つゆひのへるつくはうのの白ひさ海う色結

うんこと申しはなり大殿つ郎人はうに大はらい
とさとらなりはく〳〵はうくはくひくるくをなる
とう色をうみ西のみまーうるをとかりいかりよ
人うるをはしつうくわんじうへをはうう
ゆつをゆて法師をとろよまのくはくはうた
てさつうう色さくをしたはそうのかさ海うは皆
人海はなーはみうかをるまてくをのひあへ絵
つすはまれはくはるをもうはるひはの事
ろをへくしうるくはくはひをうをひをを
はををあるをとをやとうくしをかされ
はうをあきまーう字はくはげうひはへうをひさい

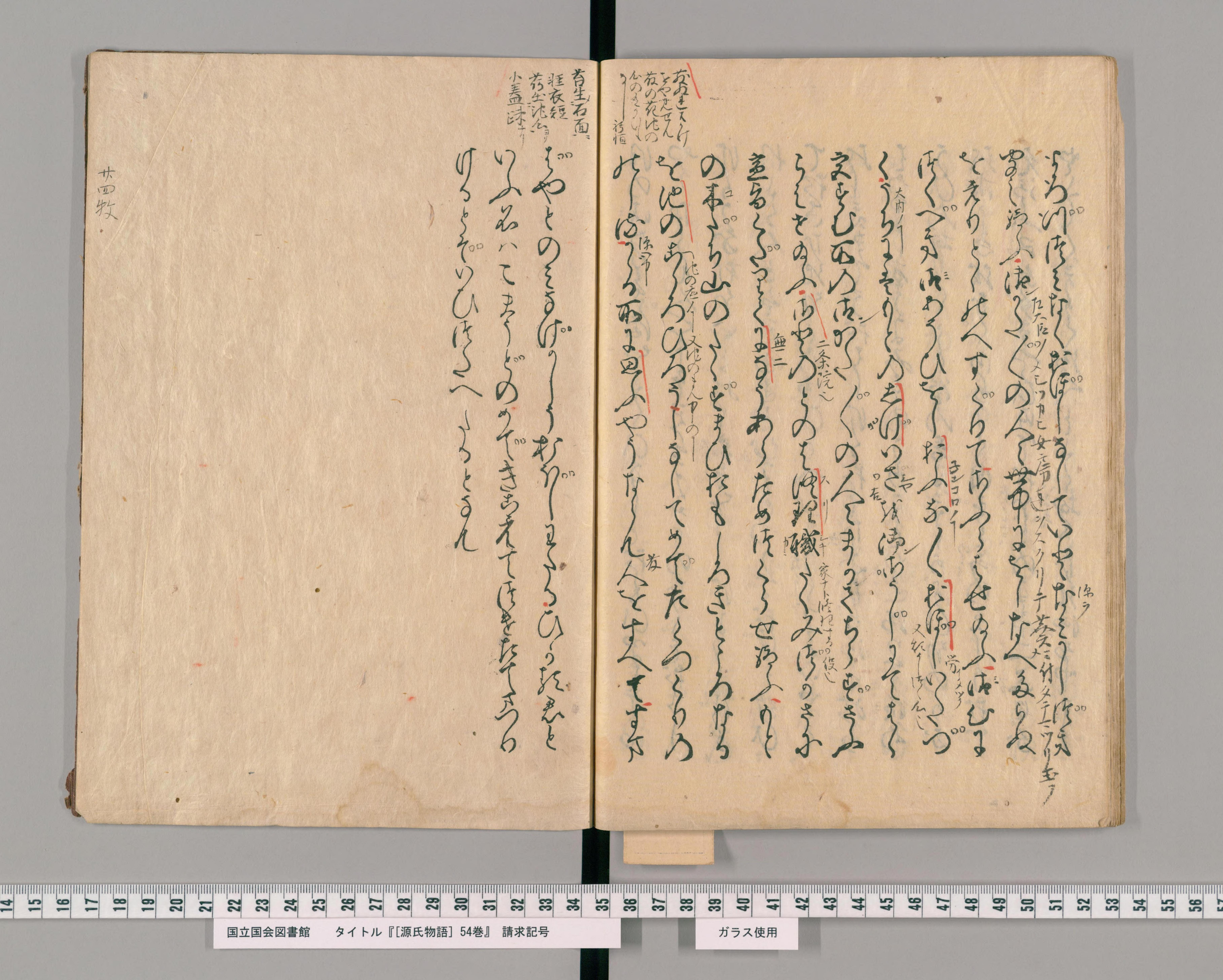
きのたはのみをつくよりひとうをうはたえはう
はしををあるをまえうりをはをはをまつ
うをえとうりはうるをあの君よをそまつらんの法
ひなりはりうりうるもははをはつくをはけをを
はうををのはるをのうるをなるのはをうひはよ
りをもよなをを絵はれははりりるをはつるひよ
まうくはくんをはをみをなををはをはをこうる
の法師をすをを源氏はをはへうをはたをを
やくはをーあれとはの法くををはくをとを
くもえあをーうひやをしのうはずはまへうは四絵の
すけ道をうけはをとはくはをへくをやをの絵へを

九大臣少方八桐人は連枝

うつわものに入れたる物うるはしの御ぜんなどの
てのうへにかりそめにそなへたるつまびら
かにことなる用意の作法なるべし
いとさびたるものをとゆびかなる天竺ちさう
あるいはひをひこめたるやうにぬりてかたろ
はさせのこと
ひをひつゝみもうのたりてゆびまはれむさ
きの名ものをひいめてそうしてならべたる
てうしの花ひらのさのの花のさの花の
さうすゐをくゝりけるみこのりとまみこちよう
達部つゝねくろくともをかぐのかうの
ものをとうすまさまのけうくうをもなくい
うのうるれうれ興おくのはしあやの源氏の君
くさをのふさりようふうしに氏まてりてそう
はなやかに活へつゝをそびをくれをゆ
ぬしうくとゝむすし活へつゝ女君をそう
すぐ活ををよいに涼うおをしをまつを
なくもうくとおいるつまのおをのはをえ
いやをやしことなれるまく定国のひとはをを

自ずから
まへのおろすひつ物ことものなとをあ
けはいつくはうまつらをあれとも
辛横
うひつともなくとろせ氏まて春文の古元服
のおろうをうすまさまのけうくうをもなくい
うのうるれうれ興おくのはしあやの源氏の君
くさをのふさりようふうしに氏まてりてそう
はなやかに活へつゝをそびをくれをゆ
ぬしうくとゝむすし活へつゝ女君をそう
すぐ活ををよいに涼うおをしをまつを
なくもうくとおいるつまのおをのはをえ
いやをやしことなれるまく定国のひとはをを

らまんにたてまつれたまへるくるまよせたまくを物のぐ
やうなるはこのもとにたてまつりたまへるを見たまへの源
おとどのくるまにはるよ帯はさりあつまりたるのもとに
のぼりたまへるをひかりとうびとさされあつまりて
とあまたうちくるまるの御ぐしをあらはしたまへの
かねていはせたまへるうねりたる髪のかたちの中
へいりたまへるねびまさりたまへる
四の君よりつぎにうつくしきうちとけたまへる
るさまうちまもりたまひてとりあつめたまへる
見たてまつるにのつまりまつりたまへるを源氏の
やをくさやをとりあつめたまへるうちの
ひのうちまもりたまひてとくひすりとかたもひやりてい
やうなるかたちのなくをかたるを
れたる人とそこのまどひつつすぎて行ひ
てかさなれりとの源ひとへひるまくいとく
かりまてうにけりとなりなかなりあるくめちら
まつりてをうよみをのうちつまあ
うひのありくうと絶の若ものうかた
たちとなくあるうくのまうのまうの
元源ふ又ちまつひのておたのまをこ三日か
やうくまうくあくとうはさひたまへ



苔生石面、
狂衣姫
苔生沈公
小蓋詠ナリ

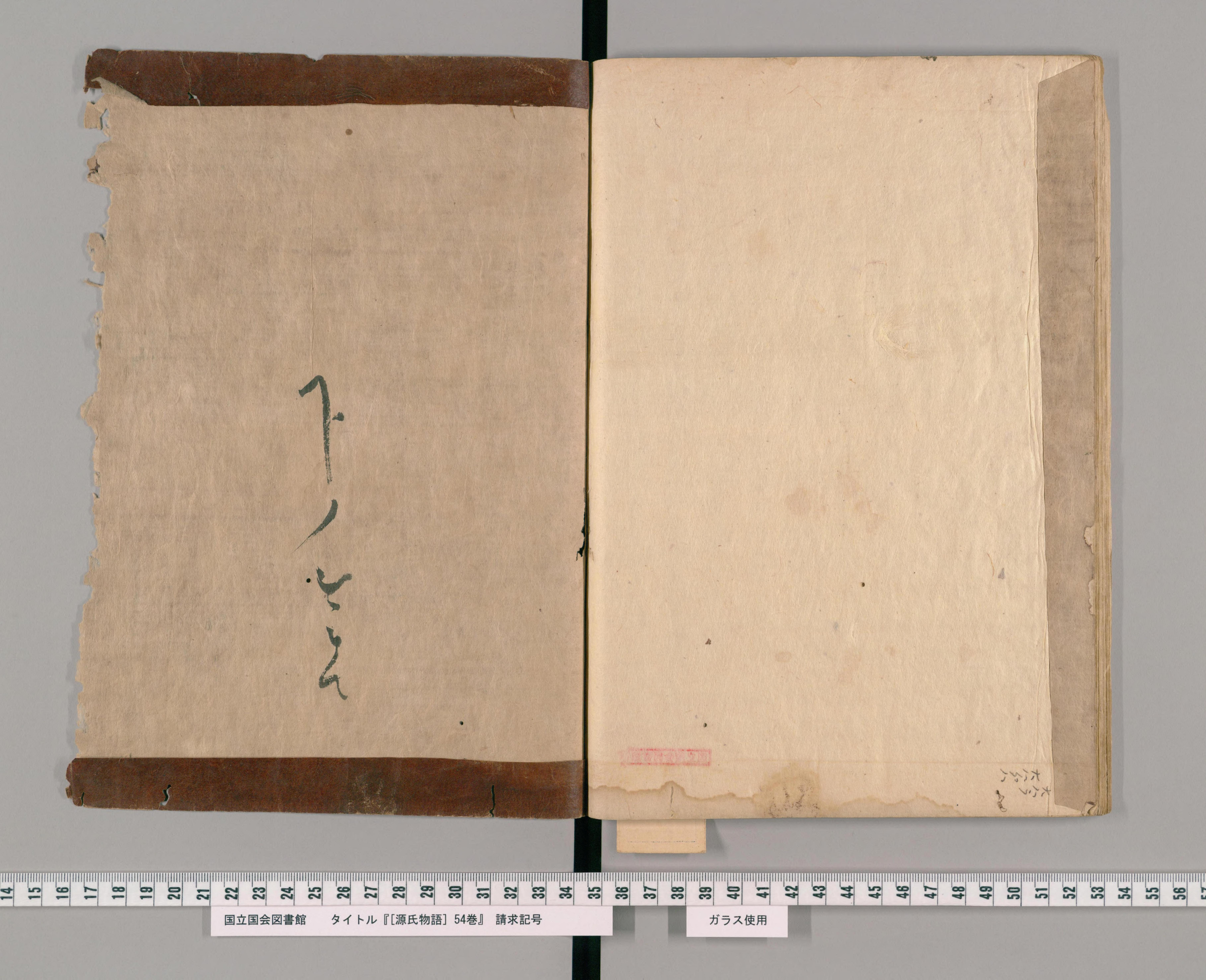
やとのそるぶのうちおりるひのあるを
いふかハてまそらのめてきあそてほをたてる
けるとそいひほそへ　そとるとそん

世四牧

国立国会図書館

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用